様式3

学 校 番 号 62

令和4年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立三井高等学校

自己評価

学 校 運 営 計 画（4月）

評価（総合）

学校運営方針	『 夢へチャレンジ！ 未来を拓くMII for me 』 「MII for me」「チーム三井」のスローガンのもと、強い使命感と連帯感をもって一丸となり、教育的愛情に基づく生徒理解と生徒一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導で個性を伸ばし、自己実現・夢実現を可能にする意図的・計画的な教育活動を組織的に推進する。

昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標
○日常的な感染防止対策の徹底を図りながら、学校行事の再検討等、組織的に対応し教育活動を円滑に進めることができた。 ○配慮や支援が必要な生徒への対応について、修学支援担当者やSSW・SCと連携を取り、充分に取り組むことができた。 ○進路に関わる行事について、コロナ禍の中でも日程を変更する等して、具体的目標に沿って実施できた。さらに、内容を充実させていきたい。 ○進路に関わる不適正な採用選考の事象において、関係機関と連携して充分に対応することができた。 ●新型コロナウイルス感染症予防と新たな学びを両立させる授業を創り上げる一層の工夫改善・オンライン学習教材の活用が最重要課題である。 ●観点別評価について、生徒の実態に合わせて評価基準、規準の見直しの必要性がある。 ●積極的生徒指導の推進を図り、生徒の自尊感情や望ましい人間関係を育む取組が必要である。 ●生徒の正しい身だしなみや振舞い方については課題がある。連携をはかりながら、根気強い指導を継続する必要がある。 ●安全指導の推進や甚大な災害等への対応について、重要な課題の１つとして取り組む。	（１）自ら考え判断し、自分の行動に責任を持ち、確かな学力を身に付けた生徒の育成	・福岡県学校教育振興プラン「鍛ほめ福岡メソッド」を踏まえ、生徒が自律的に成長するための原動力となる「自尊感情」「チャレンジ精神」等の人格的資質を育成するための指導の充実を図る。 ・「三井高生　授業開始心得」を全職員で徹底し、意欲的に授業に取り組む態度を培う。 ・基礎力診断テストの結果を検証し、教務課・進路指導課が連携して学力向上に向け、実態に応じた学習方法を工夫する。 ・習熟度による弾力的なクラス編成を行い学力の定着・向上を図るとともに、課外授業等の充実により希望進路の実現を図る。
	（２）友情を深め、お互いの人格を尊重する生徒の育成	・「三井高生３つの約束」を遵守させ、よりよく社会で力を発揮することができる生徒の育成を図る。 ・人権教育に関する校内研修の充実、地域の学習会・行事等への積極的な参加を通して人権尊重の精神を高めるとともに、教育活動全体を通じた人権教育を推進し、生徒の人権意識や人権感覚を育成する。
	（３）心身ともに健康で、何事においても最後までやり抜く生徒の育成	・学校行事等を通じて、鍛えて褒めることにより「できる」ことを実感させ、感動を得ることで自信をもたせる。 ・学校行事等の充実を図り、体験的な活動を通じて鍛えて褒めることにより「できる」ことを実感させ、感動を得ることで達成感と自信をもたせる。 ・部活動の活動内容の充実と加入率の向上（目標７５％）を目指すとともに、強化部及び活性化指定部活動の実績向上を図る。
	（４）教職員の資質及び組織力の向上	・ICTの積極的な活用を進め、授業研究や公開授業等に取り組むとともに、校内研修の充実に努め、教科、分掌、学年を超え、教職員一丸となって生徒の自己実現を図るための指導力及び組織力を高める。 ・働き方改革を推進し、健康でやりがいをもって働くことができる環境づくりに努め、教育活動の質を維持・向上させる。
	（５）ＰＴＡ、同窓会、小・中学校、地域との連携及び広報活動の充実	・学校パンフレットやホームページの充実を図るとともに、SNS等の活用を進め、生徒の学習活動、学校行事及び部活動等の様子を積極的に配信して広報活動を強化する。 ・小・中学校及び地域との連携を更に深めるため、協働した活動の取組等を積極的に進める。

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題
教科指導	生徒の習熟度に応じた基礎・基本の定着と確かな学力の育成	少人数授業や習熟度別授業を効果的に活用し、基本的な知識・技能を身に付けさせる。				
		進路支援部と協力し、基礎力診断テストを活用して個々の学力伸長を図る。				
	中途退学者の防止	教科担任連絡会等をとおして、問題を抱える生徒一人一人に必要な支援や修学状況を全職員で共有し、確認する。				
		遅刻・欠席の多い生徒について、遅刻届や欠課時数報告用紙を利用し、個別の対応を充実させる。				
	新学習指導要領に則った教育課程への準備	教科書採択に向けて各教科と協議を重ねる。				
		本校生徒の実情に合わせて評価基準・規準を見直す。				
	図書教育の推進	朝の活動の充実、図書委員会の活性化を通して、生徒の読書の推進を図る。				
		教科・総合的な探究の時間での図書館利用を推進する。				
生徒指導	基本的生活習慣の確立とマナー指導の徹底	「三井高生３つの約束」を自分たちが守るべき約束として捉えさせ、基本的生活習慣のさらなる確立を図る。				
		登校指導、服装指導、交通安全指導等をとおして、生徒の規範意識の育成を目指す。				
		アンケート調査や個人面談等を丁寧に行い、いじめへの迅速な対応を行う。				
	地域連携と防災・危機管理	市や関係機関と連携をし、生徒の安全指導の推進や甚大な災害等への対応策を検討する。				
		生徒が地域のイベントや行事等に、ボランティアとして積極的に参加するしくみづくりを進める。				
	生徒会活動の活性化及び部活動加入率７５％の達成	部活動の活性化をとおし、多くの生徒に明確な目標を持たせ、社会に貢献できる人材の育成を目指す。				
		生徒会活動を充実させ、生徒の自主性を育成し、多くの生徒に学校での充実感を持たせる。				
進路指導	３年間を見通した系統的なキャリア教育・進路指導の充実	上級学校や職種を知り、早期に自己の適性に合った進路目標を立てさせる。（第１学年）				
		自己の適性に合った、希望進路に対応するための学力の定着・向上を図る。（第２学年）				
		全員の希望進路を実現させ、社会人としての常識やコミュニケーション能力を身に付けさせる。（第３学年）				
	一人一人に応じたきめ細やかな進路指導の充実	基礎力診断テストの結果を個人面談や自己評価に活用していく。				
		進路指導課内及び各学年・各分掌と連携し、組織的に取組を行う。				
		公正な採用選考及び入試の実現に向けた取組について、関係機関・団体と連携した取組を行う。				

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は Ａ ： 適切である Ｂ ： 概ね適切である Ｃ ： やや適切である Ｄ ： 不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

研修ＩＣＴ	校内及び校外研修の充実	本校が抱える諸課題及び将来を見据えた研修会を、他の分掌と連携して企画・実施する。						
		教員の資質向上のため、授業アンケートや公開授業を推進し、教科指導力を高める。						
		人権・同和教育研修の推進・充実を図り、教職員の人権意識や人権感覚を高める。						
	授業改善とオンライン学習推進	本年度導入したスタディサプリを用い、授業で活用できるよう研修会を企画・実施する。						
		生徒育成部と連携して情報社会での行動に責任をもつことや、危険回避など情報を正しく安全に利用できることを目指し、生徒と職員全員が参加する研修会を企画・実施する。						
		ICT機器や講義室等利用簿を作成し、計画的な利用を促進する。						
保健環境	心身の健康管理についての取組の充実	ＳＣ、ＳＳＷ、訪問相談員と教職員が十分な連携をとり、教育相談活動を充実させ、生徒が安心した学校生活を送ることができるよう支援する。						
		健康調査を実施し、生徒の心身の健康状態について全職員で情報を共有し、生徒の学校生活に有効活用する。						
		性と心の健康相談や感染症予防の啓発活動を行い、生徒の心身の健康に対する意識の向上を図る。						
	校内外の美化活動の充実	日々の清掃活動を充実させ、特にゴミの分別の徹底を目指す。						
		大掃除や三井高クリーンアップ週間を充実させ、生徒の美化意識を高める。						
		各学年による地域清掃活動を充実させる。						
広報庶務	学校行事等の円滑な実施および検討・改善	要項や案内文書等を迅速に提示し、学校行事等を円滑に実施する。						
		三井高発表会について検討・改善を図り、活性化につなげていく。						
	ＰＴＡ活動の充実	ＰＴＡ活動行事を精選し、活性化を図ることで、次年度の参加者確保につなげていく。						
		安全安心メール、学校ＨＰ等を活用し、保護者への情報発信を充実させる。						
	広報活動の充実	学校パンフレットや学校ＨＰを充実させ、中学校訪問等で活用して、生徒募集へとつなげる。						
		「体験入学・部活動見学会・進路相談会」を充実させ、生徒募集へとつなげる。						
	保護者・地域と連携した学校行事の活性化	体育祭や三井高発表会など保護者や地域に開かれた学校行事の充実を図る。						
		野田宇太郎生誕祭や松崎地区文化祭などと連携して行事を行い、地域への発信を図る。						
人権・同和教育	人権・同和教育に関する知的理解と人権感覚の向上	教職員の人権に関する知識理解と人権感覚の向上のため校内・校外研修へ積極的に参加する。						
		各地区における連絡会や地域で開催される諸行事へ積極的に参加する。						
		人権教育関係の図書や資料の充実とその周知を行い、人権・同和教育学習の改善や新たな取り組みに活かす。						
	個別的な人権課題や生徒の実態を踏まえた人権・同和教育の推進	人権・同和教育推進委員会を定期的に実施し、情報交換・共有、指導・支援方法等の確認を行う。						
		生徒理解のために家庭や中学校、関係機関との密な連携を図り、情報共有や生徒指導・支援を行う。						
		生徒の実態把握に努め、各学年の課題を踏まえて、３年間を見通した人権・同和教育学習を実施する。						
事務部	教育環境の整備及び改善	定期的な施設設備の点検により。校内危険箇所等の迅速な把握及び改善に努める。						
		昨年度に引き続き、大規模改造・改修工事を実施予定であり、教育活動に支障なく実施できるよう各分掌との情報共有を徹底する。						
	予算の効率的・効果的執行	契約内容の見直しや、執行予算の精選等により最小の経費で最大の効果をあげることができるよう努める。						

評価項目以外のものに関する意見

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・
・
・
・
・